

投資戦略ウィークリー

“切っ掛け待ちの日本株？”

リサーチ部 庵原 浩樹 袁 鳴
DID:03-3666-2101 (内線 244)
E-mail: hiroki.ihara@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2017年8月28日号(2017/8/25作成)

Report type: ウィークリーストラテジー



■“切っ掛け待ちの日本株？”

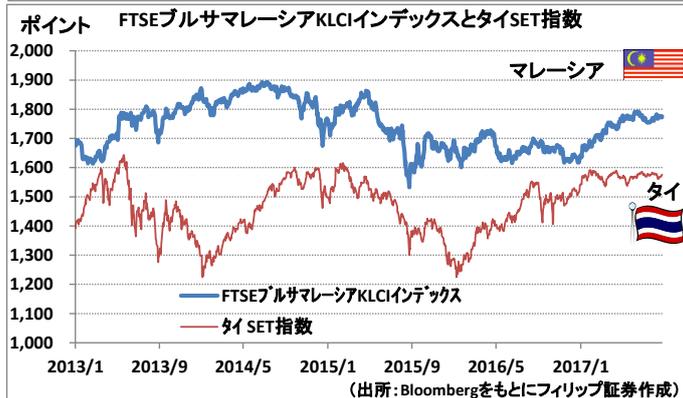
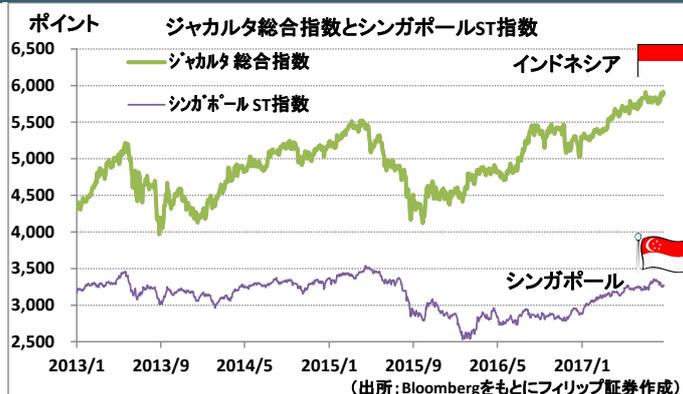
➤ 良好な4-6月期業績発表一巡後の日本株は、軟調な展開である。8/24時点の日経平均は、過去5営業日で1.77%安、8月の月初来で2.87%の下落。北朝鮮を巡る軍事的な緊張の高まりを契機に、その後の米国の政権運営の混乱などが株価を押し下げた。

8月第3週(8/14-18)の投資主体別売買動向では、個人が1,160億円と前週の443億円から2週連続の買い越しとなったが、海外投資家は前週の2,746億円に続き2,057億円の売り越しと4週連続で売り越しとなった。この間の売越額は、6,381億円にも及んでいる。

➤ ただ、日経平均の予想 PER14倍割れは、米国大統領選で想定外のトランプ氏勝利となった際の瞬間的な水準以来であり、不測の事態が起きない限り、大きく切り下がる展開は考えにくい。北朝鮮問題は当面くすぶるが、米国の金融政策の道筋がよりクリアになれば、投資家には安心感が広がる。9月のFRBのバランスシート縮小は既定路線と思われるが、イエレンFRB議長が年内利上げを考えているならば、残された時間から「利上げはあり得る」とのメッセージを市場に浸透させる必要があろう。

一方で、米連邦政府の債務上限引き上げ問題への対応を巡り、トランプ大統領が議会に圧力をかけたことで、金融市場に不安が広がりがつつある。米国では税制改革進展の観測のほか、規制緩和で大手米銀の税引前利益が20%程度押し上げられるとの試算など明るい話題も浮上しており、議会運営の好転を期待したい。8/31の中国の製造業・非製造業PMI、9/1の米雇用統計など警戒感が強まる可能性もあるが、下値不安の小さい株価は堅調な展開を予想する。9/1発表の4-6月期の法人企業統計では1-3月期に前年同期比4.5%増と好調だった設備投資の動向に注目したい。関連銘柄が相場を押し上げる可能性もあろう。(庵原)

➤ 8/28号では、大成建設(1801)、リックスポイント(3825)、スター精密(7718)、ダイワ(6383)、イワキ(8095)、アセアンはパンコ・ドゥシット・メディカル・サービス(BDMS TB)を取り上げた。



■主な企業決算の予定

- 8月29日(火): ベスト・バイ
- 30日(水): アナログ・デバイス
- 31日(木): パーク 24
- 9月1日(金): 伊藤園

■主要イベントの予定

- 8月28日(月):
 - ・月例経済報告関係閣僚会議
 - ・7月の米卸売在庫
- 29日(火):
 - ・7月の完全失業率、家計調査や有効求人倍率
 - ・米6月のケース・シラー主要20都市住宅価格指数
 - ・米8月の消費者信頼感指数
 - ・英EU離脱交渉の再開
- 30日(水):
 - ・7月の商業動態統計
 - ・米8月のADP雇用統計
 - ・米2017/4-6期のGDP(改定値)
 - ・8月のユーロ圏景況感指数
- 31日(木):
 - ・7月の鉱工業生産指数
 - ・米7月の個人所得・支出
 - ・米週間新規失業保険申請件数(8/26終了週)
 - ・米7月の中古住宅販売成約指数
 - ・中国8月の製造業PMI
- 9月1日(金):
 - ・2017/4-6の法人企業統計調査
 - ・米8月の雇用統計
 - ・米8月のISM製造業景況指数
 - ・米8月の自動車販売
 - ・中国8月の財新製造業PMI

(Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

■収益拡大期待の非鉄金属各社！

非鉄金属各社の2018/3期1Q(4-6月)は軒並み2桁増収、大幅増益。米セメント需要拡大の**三菱マテリアル(5711)**、非鉄金属価格を見直した**住友金属鉱山(5713)**、機能材料需要拡大から**三井金属鉱業(5706)**はそれぞれ業績を上方修正。

燃料電池向けなどニッケルは供給不足から市況が急伸。アルミ、銅、亜鉛なども、8月以降上昇ピッチが強まっている。ドル安、米長期債利回り低迷のなか金価格も堅調だ。**パナソニック(6752)**と共同開発した**住友金属鉱山**の車載向け二次電池用正極材の需要が拡大。電子材料の需要増と市況高などから非鉄金属各社の株価動向に注目したい。(庵原)

■米欧へ自動車や半導体輸出拡大

財務省によれば、2017/7の貿易収支は4,188億円と市場予想を上回り2ヵ月連続の黒字。自動車や半導体関連の牽引で輸出額は前年同月比13.4%増の6兆4,949億円と8ヵ月連続で増加。円安が円建ての輸出額を押し上げ、輸出量も増えた。

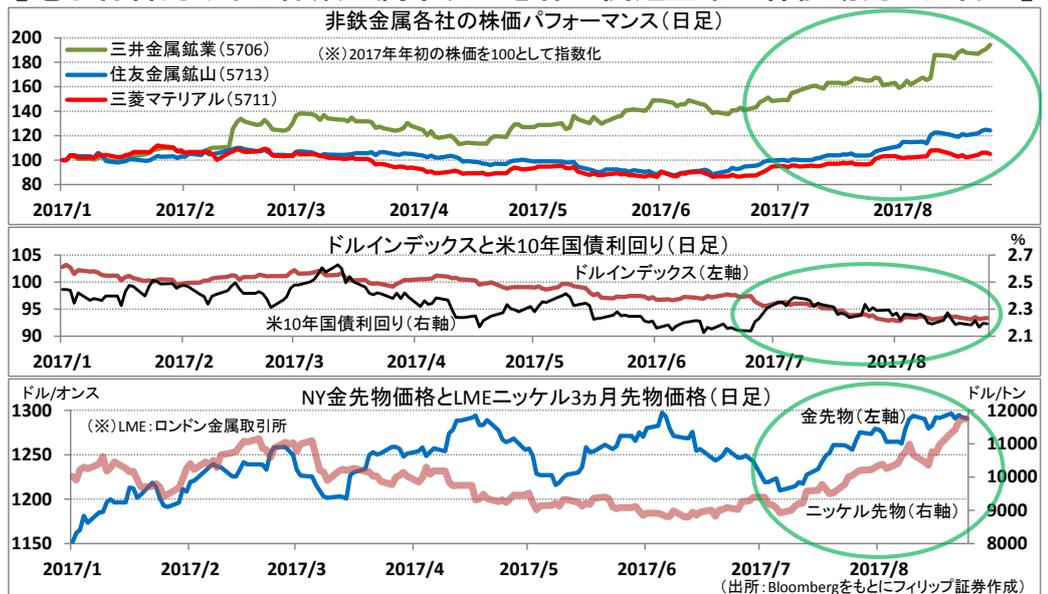
右図より、構成比の高い自動車では中国への輸出額が減少したが、アジア全体や米国は2桁増。また、欧米への自動車の部分品や半導体等製造装置の輸出は好調。今後、欧米の景気拡大や中国の経済安定化など世界経済回復に加え、FRB利上げによる円安のシナリオが描ければ、輸出の拡大が続くこととなる。(袁)

■普及進む後発医薬品と関連銘柄

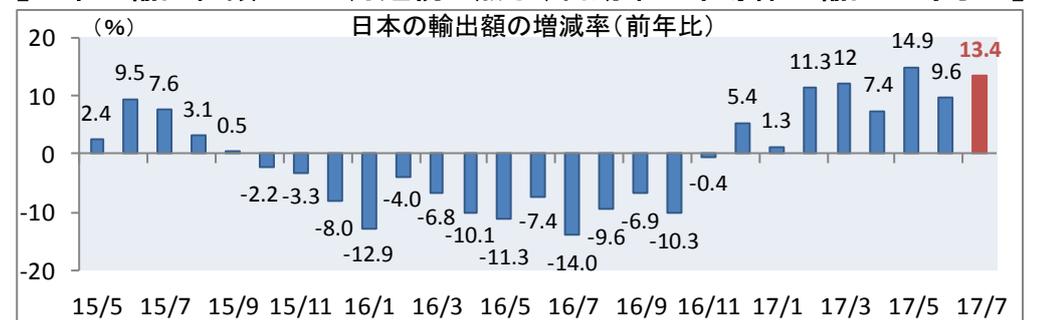
先進各国の後発薬普及率は、日本が僅か56%(2014年のデータ)と主要先進5カ国中最低水準。患者負担軽減、医療費削減のため政府が発表した経済財政運営の基本方針で後発薬の普及率目標を2017年度末の60%から2018-2020年度に80%へ引き上げ供給体制を強化へ。

後発医薬品市場の需要拡大が見込まれるなか、後発薬最大手の**沢井製薬(4555)**は2016/3-2018/3期の3年間で設備投資を従来に比べ110億円増やし550億円とする計画。また、主要後発薬メーカーの**日医工(4541)**や**東和薬品(4553)**、原薬生産・製造受託の**ダイト(4577)**、後発薬の取扱比率の高い**日本調剤(3341)**にも注目したい。(袁)

【電子材料向けなど非鉄金属市況が急伸～関連企業の株価動向に注目！】

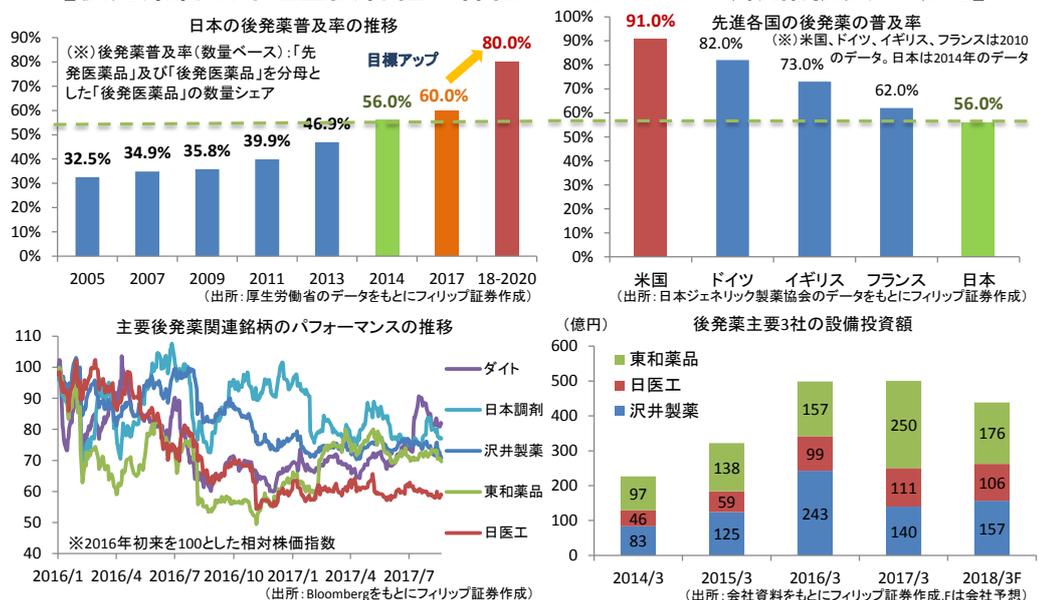


【日本の輸出総額は2ヵ月連続で黒字、自動車や半導体の輸出は寄与！】

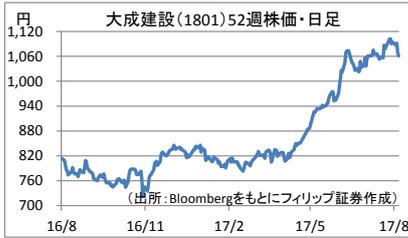


項目/国・地域	米国	EU	アジア	中国
自動車	11.5	2.3	13.2	-3.2
自動車の部分品	11.3	20.5	11.7	21.4
半導体等電子部品	0.1	2.3	13.5	8.6
半導体等製造装置	100.9	26.7	1.0	-9.8

【後発薬普及率と主要各社の株価パフォーマンス、設備投資の動向】



■ 銘柄ピックアップ



◇ 大成建設(1801)

- ・1873年に創業したスーパーゼネコン5社の一角。超高層ビル、ダム、橋、トンネル、地下鉄など建設土木工事を得意とするほか、住宅も手がけ、国内外で事業を展開している。
- ・2018/3期1Q(4-6月)は、売上高が前年同期比7.7%増の3,202.47億円、営業利益が同65.4%増の265.78億円、純利益が同63.3%増の197.54億円と4-6月期として過去最高益を更新した。首都圏を中心に再開発や東京五輪関連などの受注が好調だった。工事採算を示す完成工事総利益率(単独ベース)は13.4%と2.5ポイント上昇した。道路やトンネルの追加工事が収益を押し上げた。
- ・2018/3通期の会社計画は、売上高が前期比8.3%増の1兆6,100億円、営業利益が同11.2%減の1,250億円、純利益が同3.9%減の870億円と従来予想を据え置いた。同社は、ビルなどの壁に植物の鉢を配置して生育する壁面緑化システムで維持管理作業を軽減できる新方式を中国電力(9504)と共同開発した。運用コストを15%削減できる見込みで2018年度の実用化を目指す。(袁)

◇ リミックスポイント(3825)

- ・2004年にソフトウェア開発会社として設立。主軸の小売電気事業のほか、省エネコンサル、自社開発ソフトウェアを利用した中古車業者間販売を行う。また、仮想通貨、ホテル関係事業も行う。
- ・2018/3期1Q(4-6月)は、売上高が20.72億円、営業利益が1.73億円、純利益が1.16億円となった。子会社が運営している仮想通貨「ビットコイン」の取引所運営が好調だった。仮想通貨への資金流入が一気に拡大したことで、手数料収入が伸びた。中古車販売や中古車査定システムの販売も増加した。また、新規顧客の開拓が進み、電力売買の採算性が改善した。
- ・2018/3期1H(4-9月)の会社見通しについて、売上高が48.65億円と従来予想の35.71億円を上回り、営業利益や純利益が何れも従来予想の赤字から黒字に転じる見通し。また、通期の会社計画は、売上高が前期比2倍の113.80億円、営業利益が同20倍の6.28億円と何れも従来予想から上振れ、純利益が前期の▲4,200万円から4.03億円に黒字転換し従来予想から上方修正された。(袁)

◇ スター精密(7718)

- ・1950年設立、電子機器、工作機械や精密部品を製造するメーカー。主な製品は電子ブザー、カードリーダー、小型プリンター、コンピューター数値制御精密自動旋盤、腕時計部品などである。
- ・2018/2期1Q(3-5月)は、売上高が前年同期比22.1%増の134.75億円、営業利益が同37.3%増の11.02億円、純利益が同28.2%増の8.37億円となった。自動車向けの工作機械の受注が中国や欧州で好調だったほか、主要通貨に対する円安も利益を押し上げた。人件費高騰の中国などで設備自動化が進み、主力の工作機械の販売が活発化し同事業の売上高は過去最高を更新した。
- ・2018/2通期の会社計画は、売上高が前期比15.5%増の565億円、営業利益が同41.4%増の51億円、純利益が同28.9%増の41億円である。同社の中期計画では、企業買収など新規事業の30億円を含む売上高は同23%増の600億円、営業利益は同94%増の70億円を目指している。(袁)

◇ ダイフク(6383)

- ・1937年に創業、物の保管、搬送、仕分けなどに関する「マテリアルハンドリング(マテハン)」機械の製造に携わっている。主な製品は倉庫装置、コンベヤー、仕分け装置など物流用機器である。
- ・2018/3期1Q(4-6月)は、売上高が前年同期比14.9%増の850.63億円、営業利益が同53.6%増の66.65億円、純利益が同69.7%増の50.29億円となった。物流や半導体関連の販売が好調だったほか、自動車の生産ラインに組み込む搬送装置や空港の手荷物を搬送する設備が伸びた。
- ・2018/3通期の会社計画は、売上高が前期比23.1%増の3,950億円、営業利益が同29.9%増の300億円、純利益が同25.4%増の120億円と何れも従来予想から上方修正された。国内物流施設向け自動化システムが引き続き好調で、有機ELなど海外工場の生産システムも伸びている。(袁)

◇ イワキ(8095)

- ・1914年創業の医薬品卸老舗。一般用医薬品および健康食品を薬局、ドラッグストアに供給し、医薬品および化学品原料の国内外の調達、医薬品などの自社生産や受託加工も行っている。
- ・2017/11期1H(2016/12-2017/5)は、売上高が前年同期比4.5%増の280.43億円、営業利益が同2.5倍の8.26億円となった。医薬品事業で外皮用剤が好調だったが、薬局向けの卸売事業が低調だった。子会社の医療用医薬品販売は伸びた。投資有価証券売却益の計上も利益を押し上げた。純利益は同9.1倍の8.67億円となり、従来予想の3.3億円を大幅に上回った。
- ・2017/11通期の会社計画は、売上高が前期比3.4%減の570億円と従来予想を下回ったが、営業利益が同53.5%増の15億円、純利益が9億と何れも従来予想から大幅に上方修正された。医薬・FC事業が引き続き好調を維持しており、化学品事業の業績も改善している。(袁)

◇ バンコク・ドゥシット・メディカル・サービス(BDMS TB)

- ・1972年に設立、タイ最大の民間病院運営会社である。バンコクのほか成長市場であるタイ東南地域、タイ周辺国で展開している。専門性が高く、留学経験のある質の高い医師を揃えている。
- ・2017/12期2Q(4-6月)は、売上高が前年同期比9.4%増の171.44億 THB、純利益が同2.3倍の37.91億 THB。3事業は全て増収、主力の病院事業や商品&フーズの販売事業が好調だった。
- ・同社はバンコクのホテル「スイスホテル・ナイラートパーク」などが建つ土地を取得した。今後、20億 THB を投じ老化防止、認知症治療などを手掛ける医療センターとして再開発する計画。(袁)



フィリップ証券株式会社
Member of PhillipCapital Group

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第127号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

【留意事項】

- 上場有価証券等のお取引の手数料は、国内株式の場合は約定代金に対して上限1.242%(消費税込)(ただし、最低手数料2,160円(消費税込)、外国取引の場合は円換算後の現地約定代金(円換算後の現地約定代金とは、現地における約定代金を当社が定める適用為替レートにより円に換算した金額をいいます。)の最大1.08%(消費税込)(ただし、対面販売の場合、3,240円に満たない場合は3,240円、コールセンターの場合、1,944円に満たない場合は1,944円)となります。
- 上場有価証券等は、株式相場、金利水準等の変動による市場リスク、発行者等の業務や財産の状況等に变化が生じた場合の信用リスク、外国証券である場合には為替変動リスク等により損失が生じるおそれがあります。また新株予約権等が付された金融商品については、これらの権利を行使できる期間の制限等があります。
- 国内金融商品取引所もしくは店頭市場への上場が行われず、また国内において公募、売出しが行われていない外国株式等については、我が国の金融商品取引法に基づいた発行者による企業内容の開示は行われていません。
- 金融商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、お取引に際しては、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書又はお客様向け資料をよくお読みください。

【免責事項】

- この資料は、フィリップ証券株式会社(以下、「フィリップ証券」といいます。)が作成したものです。
- 実際の投資にあたっては、お客様ご自身の責任と判断においてお願いいたします。
- この資料に記載する情報は、フィリップ証券の内部で作成したか、フィリップ証券が正確且つ信頼しうると判断した情報源から入手しておりますが、その正確性又は完全性を保証したものではありません。当該情報は作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。この資料に記載する内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- この資料を入手された方は、フィリップ証券の事前の同意なく、全体または一部を複製したり、他に配布したりしないようお願いいたします。

WEB